

## かわさき区の宝物シート

宝物No.

1-33

かわさきえきひがしぐちえきまえひろば

# 川崎駅東口駅前広場

エリア	中央地区	シーズン	通年
	—	日時	



目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区駅前本町26-1
問い合わせ	川崎市まちづくり局拠点整備推進室
TEL	044-200-3021
FAX	044-200-3967
E-mail	50kyoten@city.kawasaki.jp
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩すぐ



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。  
承認番号（川崎市指令ま計第159号）

### 基礎情報

■川崎駅東口駅前広場は、昭和61年(1986)に整備されてから20年以上が経過し、施設の老朽化や歩行者の移動の円滑化が十分に図られていないなどの課題があった。そこで、平成18年(2006)4月に策定された「川崎駅周辺総合整備計画」において、東口駅前広場における交通結節点の強化、回遊性の向上、バリアフリー化の促進など諸課題に対する基本方針が示された。翌年3月、市は「東口駅前広場再編整備計画」を策定。その後、同計画に基づき、再整備は進められ、平成23年(2011)3月に完了した。

■再整備が行われた現在の東口駅前広場は、バリアフリーに配慮した、シンボリックな駅前空間となっている。

■川崎市にはかつての公害対策で培った優れた環境技術を持つ多くの企業や研究機関が立地している。こうした環境技術を多くの人々が身近に感じることが出来るように、東口駅前広場全体を環境技術の展示場とすべく、太陽電池パネルによる自然エネルギーの活用や、光触媒など、川崎市内で研究・開発されている先端技術を導入した。

### 由来・エピソード

■主な特徴

【大屋根、サンライト】高い位置にガラスの大屋根を設け、見通しのよい、開放的な空間を確保。さらに大屋根と連続して、地下街を見通せるガラスの回廊を設けることで、地上と地下の回遊性を高めるとともに、東口から東西自由通路を経て、西口へ至る歩行者軸をつくっている。

【アースキャンドル】環境技術の展示場にふさわしいシンボルモニュメントとして換気塔を兼ねたシンプルな白い四角柱のタワーに、LEDの発光体を配置。気温、風向の変化によってLEDの色が変化することによって、歩行者が、環境の変化を視覚的に認識できる。

【太陽電池パネル】タクシーシェルターへ太陽光発電パネルを設置。特徴として、太陽光発電パネルを屋根面の上部に設置するのではなく、両面発電が可能なパネルをガラス素材の屋根面に挟み込むことで、発電効率を向上。発電した電気を広場内の照明やアースキャンドルの電気に利用し、広場内の道路照明をLED照明等とすることで、長寿命化と低消費電力に繋げ、より効率的なエネルギーの活用を図っている。

【東西連絡歩道橋】川崎駅の南側にある東西を結ぶ連絡歩道橋は、階段等により回遊性やバリアフリー上の課題が生じていたため、エレベーター、エスカレーターを新設し、階段の段差をスロープ構造のデッキで解消し、バリアフリー化を図った。

【平面横断、バス島の集約、ゆとりのある歩行者空間】7つに分断され、地下街からのアクセスのみとなっていたバス島を2つに集約し、歩行者が地上を平面で移動できるようにした。これによって、バリアフリーの問題を改善するとともに、歩行者の回遊とゆとりのある広場空間を生み出している。

【荷さばき場】川崎駅周辺では、路上駐車による交通容量の低下及び道路渋滞、バス停周辺における乗降環境の悪化が問題となっていた。路上駐車を無くし、街全体の魅力を高めることを目的として、荷さばき場を2カ所整備している。

### 補足・その他

■駅へと通じるガラス回廊中に「石敢當(いしがんとう)」と呼ばれる記念碑が設置されている。これは、1960(昭和35)年宮古台風災害に対して、川崎市議会が超党派で中心になり、全市で災害救援金の募金活動が行われ、その御礼として当時の琉球政府から贈られたものである。なお、石敢當とは古代中国の力士の名前で、この3文字を刻んだ碑を建てて厄除けとする風習が沖縄・南九州地方で伝承されている。

### 関連シート

(1-21)アゼリア・宇宙カプセル